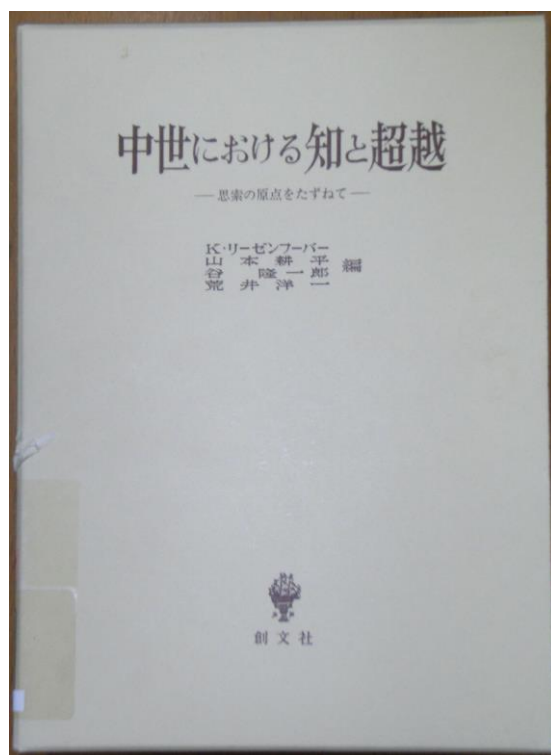


中世における知と超越

K・リーゼンフーバー 山本耕平 谷隆一郎 荒井洋一 編

創文社刊 1992年



【目次】

序言 K・リーゼンフーバー

アタナシオスにおける受肉と救済 泉治典

エペクタシスとエクレシア——ニュッサのグレゴリオス『雅歌講話』を中心として—— 谷隆一郎

内在としての存在——アウグスティヌス『ソリロクィア』、『魂の不死』における—— 中川純男

アウグスティヌスにおける「呼ぶ・呼びかける・呼び求める」 荒井洋一

ボエティウスにおける運命と摂理——De consolatione philosophiae を中心に—— 松田禎二

経験と神 稲垣良典

トマスにおける人間の意志の自由と必然 山本耕平

超越概念と経験——トマスの場合—— 花井一典

トマス・アキナスにおける超越論的規定の展開 K・リーゼンフーバー

エックハルトのドイツ語説教の意義 宮本久雄

エックハルト『創世記注解』における「存在」の問題 中山善樹

グレゴリオス・パラマスと哲学——ヘシカスムの伝統との関連において——
大森正樹

オッカムにおける方法としての論理学 清水哲郎

事項索引

人名索引
